

## 県教育センターだより

山形県教育センター 情報教育部長 阿部 進

### 1 はじめに

教育センターは、本県の中核的な研究・研修機関として、教員の資質の向上のための研修の充実、教育課題を踏まえた実践的研究の推進と普及、そして学校や各研究会の研究・研修活動への協力、さらには各種教育資料の収集や情報の発信などを通じて、学校や先生方の支援を行っています。

### 2 新規研修講座について

20年度は、これまでの教員研修体系に職務研修としての枠組みを位置づけ、研修講座の大幅な整理・見直しを行い、新たに7講座を立ち上げました。

この新規講座のうち「中堅教員錬成講座」は、学校において中核として活躍が期待される教員の資質と能力、学校経営に参画する意欲と力の向上を図ることをねらいとして新設され、本県教育の現状と課題や組織を動かすための演習などについて、2日間の日程で実施しました。また「優秀教員招聘による授業名人育成講座」は、県外から優秀教員4名を招き、その授業等に触れ、教育理念と指導力の向上をめざし実施しました。いずれの講座も受講した先生方からは約90%と高い満足度を得、好評な講座となりました。

### 3 「教育の情報化」の推進

20年度の情報教育に関わる研修講座は、小中特高の初任者研修における「教科指導とICTの活用及び情報セキュリティ」等の講義・演習、また専門研修での「校内ネットワークづくり基礎講座」と「授業でICT活用する先生のための基礎講座」を実施しました。21年度はこれらに加え「情報モラル教育推進講座」を新規に実施する予定で準備を進めています。新学習指導要領においては、小中の道德の時間に情報モラルについての指導が明記され、21年度より先行実施されます。児童生徒の情報モラルの育成は、喫緊の教育課題であり、各校においても体系的・計画的に取り組んでいく必要があります。

昨年度より進めてきた山形県情報教育推進計画の改訂は、「やまがた教育の情報化推進の指針」として、昨年12月に策定され、各校にも配布しました。この指針は本県の今後約10年間の情報教育の方向性を示したもので、めざす目標を「情報社会を心豊か

に生きる人間の育成」とし、特に「モラル」と「コミュニケーション」の視点を踏まえ、山形らしい心の通う情報教育の推進をめざしています。具体的には児童生徒の情報活用能力の育成を主眼とした「情報教育の推進」、先生方の「ICTを活用したわかる授業の推進」、そして子どもたちと向き合う時間を増やすための「校務情報化の推進」を大きな柱としています。

コンピュータや情報通信ネットワークなどを通じて情報を適切に活用していくことは、これからの時代を生きるための必須の手段ですが、単なる手段としてではなく、人と人が心を通わすことのできる豊かなコミュニケーションツールとしての活用が求められます。なお、教育委員会としてはこの指針を踏まえ、2年ないしは3年毎の実行可能なアクションプランを設定し、実効性のある具体策を立案し取り組んで行く予定ですが、今日の高度な情報社会においては、校種を超え継続性のある、また地域との連携を踏まえた情報教育が求められています。工業教育においても、これまで以上に、ぜひこうした視点からの取り組みをお願いしたいと思います。

### 4 山形県教育情報通信ネットワークの活用

教育センターのホームページは、平成11年の開設以来、年々コンテンツ等の充実が図られ、現在は膨大な教育情報データベース機能を持つサイトとなっており、アクセス数も年間約50万件と、大幅に増加しています。こうしたことを踏まえ、20年度からセンター独自の新たな調査研究事業を実施しています。

具体的には、「ゆとり創造のための校務の情報化」として、谷地高校をモデル校として校務情報化の支援を行っています。また「オープンソースソフトウェアの教育への有効性」を実証する活用研究会を組織し、22年度までにその可能性について明らかにする予定です。さらに、「WEBにおける情報発信の有効性」についても新たな視点から研究を進めています。

工業部会の先生方からもアドバイスを頂戴し研究を進めていきたいと思っています。今後、こうした教育の情報化への取り組みについては、順次、センターホームページにて公開していく予定です。